

長野市公共交通活性化・再生協議会 第1回自転車活用推進部会 議事概要

- 1 開催日時 令和元年6月24日(月) 午後2時00分～午後3時22分
- 2 開催場所 長野市役所第二庁舎10階 会議室201
- 3 出席者 出席者7人(うち代理出席1名)、欠席委員1人、事務局職員8人
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 自己紹介
 - 4 自転車活用推進部会の設置について 資料1、2、3
 - 5 協議事項
 - (1) 長野市自転車活用推進計画策定について 資料4、5
 - (2) 業務委託仕様書について 資料6
 - (3) その他
 - 6 その他
 - 7 閉会

議事概要

【4 自転車活用推進部会の設置について】

事務局から資料1、2、3により説明があった。

○質疑等なし ⇒本件は、承認された。

【5 協議事項】

- (1) 長野市自転車活用推進計画策定について
事務局から資料4、5により説明があった。

[意見等]

◆A委員

資料4の「6. 計画策定に関する基本事項」の「計画対象区域」について、長野市全域となっているが、範囲が広く利用頻度も違うと思われるので、全体の分析をして、優先順位を付け、例えば平地部を優先的に進めていくなど検討をしていただくことができるのか。

⇒事務局

中心市街地と中山間地では自転車の利用条件や利用頻度も違う。まずは、中心市街地で通勤・通学等に多く利用される部分から、検討したほうが良いのではないかと考えている。

◆A委員

平成28年度にネットワーク整備ガイドラインの交付対象が緩和され、区域全体の計画を考えたいと一部地域を優先してネットワーク計画をつくることでも、交付金の対象になることになったので、計画策定の際には検討いただきたい。

◆B委員

今回この自転車活用推進計画の中でネットワーク計画も検討されるとのことだが、県道も含めてネットワーク計画を作られるということで良いか。

⇒事務局

県道を含めたネットワーク計画を考えている。

◆C委員

その際に、長野県のネットワーク計画や、近隣市町村の計画等との整合性も図りながら、計画策定をお願いしたい。

◆D委員

市内の通勤・通学のためのインフラ整備なのか、インバウンドを含めた自転車文化を世界に発信していくのか、この部会が最終的にどういう方向にまとめていくのかを、最初の段階で決めていただくと提案がしやすくなる。

⇒事務局

先ほど説明させていただいた基本方針(案)にも幾つか掲げさせていただいているが、通勤・通学や日常利用の関係及び新たなルートもつくって観光振興に繋げていければとも考えている。計画には色々な部分を考えながら進めていきたい。

◆C委員

これからの議論の中で、市内に住んでいる人のための話なのか、インバウンド含む県のネットワークのようなスケールの大きな話なのかということ、ある程度分けて考えたほうが良い。最終的な計画の作り方はこれから議論していけばいいが、議論しているときは、意識して分けて進めたほうが良い。

◆A委員

他の自治体では、どれか一つに絞るのではなく、むしろ全部入れ込み、優先順をつけて計画の段階で落とし込んで反映していくという方法を取り計画策定した事例がある。

◆C委員

A委員が発言されたように、先進地の事例があるとのことですので、事務局で事例を聞きながら進めていただきたい。

◆E委員

自転車利用者を増やすためにも、自転車を快適に走行できる環境づくりが必要である。また、少子・高齢化が進む中で高齢者が日常的に自転車に乗れる環境づくりと、小さい頃からの自転車に対する意識づけが大切だと考える。

◆C委員

部会としては、次は10月にアンケート結果の報告をうけることになっている、このアンケートを実施することは賛成だが、自転車は様々な種類があるのでアンケート項目を請負業者とよくデスカッションしていただき、決めていただきたい。

◆D委員

アンケート項目(案)ができたところで委員の皆さんに提示していただきたい。

◆C委員

部会の開催までしなくても、アンケート項目(案)を委員に提示して、意見をもらうことでどうか。

⇒事務局

承知した。

- (2) 業務委託仕様書について
事務局から資料6により説明があった。

◆A委員

自転車がどの程度使われているのかという利用率を求める時に、分担率というものを使う。今回の業務委託の中で、分担率を把握するところまで実施するのが課題となる。分担率を求めた後、それに対してどのようなニーズがあるのかをアンケート調査する。2,000名にアンケートを聞くのは件数が少なく偏った分析になってしまう。どこまで、この業務で行うのか。

⇒事務局

長野市としても、2,000名に対して分担率を求めるのは難しいと考える。

都市政策課でパーソントリップ調査を実施している、パーソントリップなので傾向と
なってしまうが、そういったデータを使用する方法もあるのではないかと。

◆A委員

パーソントリップは、広域的な移動に対しての調査というものを概念においたものなので、可能であれば中心市街地のみの分担率を優先的に検討することも考えてはどうか。

⇒事務局

予算の関係もあるので、今回の業務委託で分担率まで求めることができるかはわからないが、できるだけ実際に使える既存データを基に進めていきたい。

◆E委員

そういったデータはどこかの機関にあるのでは？

◆A委員

十数年前のデータであれば、国で実施したものがある。現在は実施していないので現状のデータはない。

◆C委員

大学等で、自転車と自動車の交通に関する実測調査を研究の一環でやった実績があれば提供していただくよう依頼してみてもどうか。

提供いただいたデータと、県や市のデータと照らし合わせて見たらどうか。

警察には、そういったデータはないかと。

◆F委員

データはない。

◆D委員

高校生の利用が朝晩多いので、市内の全ての高校にアンケートを依頼してほしい。高校生が使用する路線を把握することで、自転車道として整備する箇所が見えてくるのではないかと。

◆C委員

自転車に乗っている人は、自分の身の安全と利便性を勘案し、自分にとって都合の良い路線を選んでいると考えられる。その道を整備することにより、その道上のネックになっているところが改善され、流れがぐっと良くなる場合がある。

◆E委員

通学時に、駅の駐輪場から、自転車で市内の高校に通っている人がいると思う。既存の駐輪場で、利用者の利用目的（通勤・通学など）や、年代等がある程度わかれば、そういったデータも使えるのではないかな。

◆B委員

ネットワーク計画なので、基本的には道路でいえば幹線道路のような意味合いのものを計画して整備するのではないかな。現在、裏道等を利用している方を、この計画で位置付けて整備するネットワーク路線に引き込みたいということだと思う。ネットワーク計画で定めた道路に対して、どういう空間なら自転車を乗ってくるのかという趣旨のアンケートが有効ではないかな。

◆A委員

前からパブリックコメントについて思うことは、計画を見たときに、いかに迫真性があるかだと感じている。今回の計画も、実際の利用とずれていると計画に対して納得ができないといことになりかねないので、最初のところで、しっかり押さえておく必要がある。

◆C委員

今まで出た意見をまとめると、他の自治体でやってきたアンケートを参考にアンケートを実施すれば良いという考え方では難しい。アンケートはとても需要なので、請負業者と打ち合わせを密にして進めていただきたい。

◆A委員

自転車が絡む事故、当然、事故対策という観点でも汎用していくような計画ができればいいと思っている。これに関しては、警察からデータを提供いただき、計画に反映していくほうが良い。

◆D委員

交通ルールを守らない人が多いので、子どもから大人まで自転車の安全教育が必要だと感じている。警察には、自転車事故につながらないための取り締まりをしていただきたい。

◆F委員

まずは、交通ルールやマナーの教育が大変重要である。

また、取り締まりという観点からいうと、イエローカードというものの交付し、指導・警告をしている。（二人乗り、並走、無灯火など）

⇒事務局

安全教育について、市では自転車のマナーをいかに浸透させるのかということで、警察と連携して啓発活動などを実施している。年2回ほど、実際にスタントマンをお願いして中学生を対象に交通教育を実施している。

先ほど、お話があった高校生のマナーの悪さが目立つという意見は、市民からもいただいている。今年には高校生を対象にした交通教育を実施しながら、市としても周知していきたいと考えている。

○以上の質疑のあと、本件は承認された。

(3)その他
特になし

【6 その他】

第2回部会は、令和元年10月頃開催を予定しているが、その前に委託事業者が決定しアンケート内容（案）ができたところで委員の皆さんにお示しし、ご意見をいただきたいと考えている。